



日野
多摩
稻城

地区 保護司会だより

第53号



——「司」について思うこと——

副会長（日野分区長） 土方 三男



「〇〇し」という免許・資格や職業は沢山あります。例えば医師や看護師等に使われる「師」は専門的な学歴や技術を要し、国家試験などにより免許が与えられることが多く（サギ師は別ですが）、また、弁護士や税理士等に使われる「士」は専門の知識や技術を身に付け、その資格を取得している場合に用いられることが多いと思われます。

では、「保護司」の「司」はどうでしょうか？「司」はつかさどること（人）主に公の役目として取り仕切ることを意味し、本来は律令制における「省・寮・司」などの役所や「その役に責任を持つ者」を指しています。

保護司は法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員で、委嘱に必要な条件は、①人格・行動が社会的信望を有する②必要な熱意・時間

的余裕を有する③生活が安定している④健康で活動力を有していること（保護司法）の4条件だけです。我々保護司は熱意を持って犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティア（英語ではVolunteer Probation Officer）であり、法律などの専門的な知識や資格・免許は不要です。必要なのは前の4条件だけで、また、保護司の職業も様々です。

私も保護司を委嘱され15年になります。委嘱後すぐに懲役3年執行猶予5年という4号觀察の重いケースを担当しました。緊張と不安で初めて面接した時のことを今でも思い出します。彼とは1度も面接を欠かすことなく5年の付き合いをしました。対象者には見る者・見られる者の関係ではなく一人の人間として対等な関係を保つことが大切な事だということを学びました。今後もこの初心を忘れることなく対象者に向き合うことができればと思っています。

各分区の活動

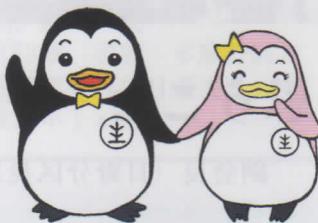
〔管外研修で学ぶ〕

日野分区

分区長 土方 三男

日野分区視察研修について

日野分区では、12月14日に府中刑務所の視察研修を行います。新しい保護司が増え府中刑務所の視察を経験した保護司が少数となったことや宿泊を伴う研修では多数の保護司に参加していただくことが難しいことから、府中刑務所を研修場所に選びました。府中刑務所は日本最大の規模で定員は2,824人、主にB級（犯罪傾向の進んでいる者）、F級（外国人受刑者）を収容しています。施設の見学はもちろんですが、再犯防止に対する処遇上の課題、受刑者の高齢化（B級）、外国人に対する宗教的な習慣や食事への配慮（F級）などについて知る良い機会であると思います。視察研修終了後には年末懇親会を開催し、分区会員間の親睦を深めていきたいと思います。



ホゴちゃん&サラちゃん

多摩分区

分区長 紀 初子

有明高原寮視察研修

11月6日～7日晚秋の色濃い安曇野の有明高原寮を16名の保護司が訪れました。

戦後の混乱期、貧しさに耐えていた少年たちに手を差し伸べた「緑の丘の赤い屋根、とんがり帽子の時計台」で有名な施設です。

初等・中等少年院で、収容者の少年のほとんどが更生を果たしていると聞きました。かつて「人は変われる」という放送でも紹介された有明高原寮は前途ある少年を数多く、健やかに更生されていました。多摩市の少年でお世話になった者もあり、深く更生して力強く巣立っていました。

見学後は、矯正施設の現状と課題について講

義を拝聴し、質疑応答も活発に交し、保護司の活動と連携・継続していることを実感しました。

人が変われるところに温かい心の人ありを痛感した視察でした。



稻城分区

分区長 篠崎 誠一

稻城分区活動に参加して

稻城分区では毎年9月に暑気払いを実施し、保護司会員の駐車場を借りてBBQ集会を行っています。保護観察官、市長、副市長、担当部長と諸係り、そして保護司とその家族なども加わって団欒が始まります。普段話せない人との交流もあり、楽しく有意義な時間を過ごしました。

また、今年の管外研修は平成29年11月28～29日に実施し、NHKで放映中の大河ドラマ〈おんな城主 直虎〉の地である静岡県の浜松に決まりました。更生保護の祖である金原明善記念館に行き、幅広い分野で活躍した金原明善の功績や資料に目を通し、今後の保護司活動の糧にしたいと考えております。



更生保護女性会活動報告



会長 関戸 良

保護司会の皆様には日頃よりご支援、ご理解を賜りまして、心より感謝申し上げます。

当地区更生保護女性会は昭和57年4月に創立して35年余りになりました。この間犯罪や非行の無い安心して暮らせる明るい社会づくりのために活動してまいりました。

犯罪や非行の予防と共に更生の支えとなる社会奉仕活動として、「社会を明るくする運動」「子育て支援」「防犯パトロール」「登下校時の見守り」など今も継続して取り組んでおります。

格差社会、少子高齢化は大きな社会問題となっています。首都東京多摩ニュータウンを抱えている日野・多摩・稲城地区は時代とともに社会の変化の波をいち早く受けており、更生保護活動も変貌していく社会の中で見直す必要に迫られています。

社会参加活動報告

日野・多摩・稲城地区保護司会の社会参加活動は、年3回行われています。

1回目は毎年6月の第4土曜日（今年は6月24日）サポートセンター百草台花壇の植栽と雑草取りを対象者、観察官、保護司で行っています。

2回目は、毎年10月中旬（今年は10月11日）京王線稲城駅前のイタビカズラの剪定と周辺のゴミ清掃を対象者、観察官、稲城市職員、保護司で行っています。

3回目は毎年12月の第1土曜日サポートセンター百草台花壇まわりの松の剪定、サポートセンター内の落葉拾い、枯草の収集を対象者、観察官、保護司で行っています。

各回共参加者（特に保護司）は集合時間より30分位前に会場に到着し、作業を進めています。

先輩保護司のやる気と躍動は年令を感じさせず、対象者にもその姿が伝わり、一生懸命楽しそうに作業をしています。

作業終了後のティータイムは、やり終えた達成感と満足度で参加者全員が和やかにお茶をかわしています。

そのような情景で日野・多摩・稲城地区の社会参加活動が行われています。

地域活動部

非行・虐待・いじめ・薬物等からの立ち直りや克服、再犯防止を後押しする居場所をつくる為には保護司会と更生保護女性会、更に地域の活動との連携が重要となります。

保護司会、更生保護女性会員の惜しみない努力と気高い社会奉仕の精神が、次代を担う青少年の健やかな成長と、犯罪や非行の無い明るい社会を築くものと強く感じております。どうぞお力添えいただきますようお願い致します。

これからも更生保護女性会は、そっと見守る「母の心」を持って更生保護活動に手を差し伸べていきます。明るい社会の為にいきいきと活動できますよう、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。



平成29年度 多摩連理事会開催

- ・平成29年5月23日（火）
- 午後2時30分～3時30分
- ・東京保護観察所立川支部会議室

午後1時30分から行われた東京保護観察所立川支部主催の保護司代表者協議会に引き続き多摩連理事会を開催しました。各地区から理事約70名が出席し、平成28年度の事業報告・収支決算報告、新役員選任、29年度の事業計画、収支予算、分担金額変更、規約規程改正の審議・承認が行われ、新役員のもと、新年度の活動が本格的にスタートしました。

《今年度の主な変更点》

- ・平成28年度新規事業として行われた保護司全体研修会は隔年開催とする。それに替って29年度は保護司研修会（対象約80名）を開催する。
- ・平成30年度より、分担金額を変更する。

【現 行】1,600円×保護司定数

【変更後】1,800円×保護司実数（当該年度4月1日現在）

- ・規約改正

第6条 理事定員 80名以内→90名以内

- ・専門部規程改正

第2条 各専門部定員 20名以内→25名以内

第3条 ①各地区保護司会総務部との連携→

①各地区総務部等との連携

- ・ホームページ取り扱い基準新規追加

「第27回啓発パレード」開催



出発式



キティちゃんとベルディ君

犯罪と非行 助けよう 立ち直りのプラカードを持ってパレードに参加していただきました。中学校全9校からは、大勢の生徒さんが参加していただき、タスキをかけて協力してくれました。また、聖ヶ丘小学校6年生がマーチングバンドの演奏をしてパレードに華を添えてくれました。聖ヶ丘小学校におきましては、演奏する子どもたちに、「社会を明るくする運動」の意義を伝えた上で参加させたいという校長先生のご意向で、事前に正副分区長が学校を訪問し説明しました。皆、真剣に聞いてくれました。キティちゃん・ヴェルディ君・タマボラ君も加わっていただき賑やかなパレードになりました。

当日はカンカン照りではありませんが暑い日でした。テント2基を張って受付・飲み物コーナー・救護所を設置し対応しました。

暑い日にも拘ず当日の参加者は59団体で、909名の皆さんに参加していただきました。大きな事故もなく盛大に実施することができました。これは偏にご指導、ご尽力をいただいた学校の先生方やご参加いただいた市民の皆さまのご協力の賜と深く感謝申し上げます。

沿道の皆さまには、更生保護女性会がタオルで作った啓発グッズと竹製のうちわ等を配布させていただきました。

「社会を明るくする運動」啓発パレードは、学校や地域の皆さんのご理解、ご協力をいただいて実施しています。運動の趣旨である「犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築くための取り組みを進めよう」「犯罪や非行をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる社会にすること」を目指して推進すべく、更なる運動の充実を進めて参りたいと思っております。

今後とも皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

多摩分区

第6 社会を明る 犯罪や非行 立ち直りを支え

7月17日（海の日）パルテノン多摩の大階段で出発式を行い、第67回「社会を明るくする運動」啓発パレードを実施しました。

第27回目の啓発パレードを迎える今年は、開催するに当たり分区で昨年9月より議論を重ねてきました。屋外での実施ということもあり、ここ数年の異常気象に絡み、暑さ対策と悪天候についての対応が大きな課題でした。色々な意見を出し合った結果、今まで午後4時から実施していましたが、今年は午前10時から実施することにしました。同時に集合場所やパレードのコースも見直し、変更しました。

出発式では、多摩市社会を明るくする運動推進委員長である阿部裕行多摩市長、東京保護観察所立川支部前川洋支部長、清水哲也教育長を初め、来賓の皆さんからご挨拶をいただきました。

多摩市民生児童委員の皆さんには、標語である「防ごう



パレード行進



受付風景



パレード行進全景

稻城分区

社会を明るくする運動（社明）で感じた一考察

7回 くする運動

を防止し、
る地域のチカラ

7月になって社明運動に参加し、感じたことについて今回述べたいと思います。1日は日野、3日は稻城、17日に多摩で実施されました。

稻城分区はJR南武線の矢野口駅・稻城長沼駅・南多摩駅、京王線の読売ランド駅・稻城駅・若葉台駅の各駅頭、平尾方面ではバス停において、

更生保護女性会（更女）を始め中学生、先生、各関係団体が参加して実施されました。市内の小、中学生が折った黄色の折り鶴をポケットティッシュに入れ通勤の皆さんに社明運動を呼びかけました。そして推進委員長の市長、教育長が先頭に立ち生徒、関係団体の皆さんに意義と目的を話し、記念写真と一緒に7ヵ所で撮って生徒達の思い出作りの一環になっています。



ジャイアンツ球場入口



ジャイアンツ球場電光掲示板



稻城長沼駅頭 市長を囲んで



なしのすけ君

また、7月10日には稻城読売ジャイアンツ球場に行って保護司、更女の皆さんとで観客に入場門前で啓発活動をしました。球場関係者の方も応えて下さって、電光掲示板に社明のメッセージを流してくださいました。

その他にも稻城分区では、盆踊り、夏祭り等で広報活動を行いました。

全国では7月から一斉に社会を明るくする運動が展開されますが、保護司は4月には準備会、運営委員会を開いて、更女と年度の構想を考えています。また、分区長は霞ヶ関の東京保護観察所での準備委員会に出席し、注意事項、今年のテーマ、総理大臣、東京都知事の代読挨拶などに参加してきました。質疑応答の際、矯正施設（刑務所員）の方の話で考えさせられた事がありました。受刑者の老人が多くなっている事、6ヵ月位の刑だと例えば夏に入り冬に釈放されるため、その時々に衣服を持ち合わせない老人が多い事を話していました。

第67回今年のポスターでは、マスコットキャラクターにペンギンのホゴちゃんの他にサラちゃんが加わりました。そのテーマは、「もどらない・もどさない」をスローガンに展開されました。

現在の稻城地区に目を向けると、中学生の心が社明作文にも表れています。今回稻城の中学校での応募が218部にのぼり、保護司として励みになりました。保護司活動は、地域住民の方の連帯を強め、地域の犯罪や非行を抑止する力を増進、誰もが参加できる犯罪予防活動を展開しています。犯罪や非行の防止、犯罪をした人や非行少年の立ち直りを助けることへの理解と協力をお願いし、今後も社明運動により一層のご協力をお願いしたいと思っています。

日野分区

子ども・いきいきふれあいステージ開催

4月27日に最初の社明運営委員会を開催し、第67回社明運動がスタートしました。この後2回の運営委員会を開催しました。

6月6日には推進委員会・社明イベントの準備を行い、6月20日関係34機関が生活・保健センターに集り、日野市推進委員会が開催され、小中学校関係者、市・諸団体、保護司・更女から66名の出席がありました。推進委員長大坪日野市長・米田教育長の挨拶を頂いた後、土方分区長より社明運動の趣旨説明、貴志保護司より社明イベント「子ども・いきいきふれあいステージ」の内容説明が行われました。その後、本年の広報用ビデオ「更生保護活動について（チェンジング・ハート）」を上映し、推進委員会参加者に社明運動の趣旨や保護司・更女の活動などを紹介する良い機会となりました。

7月1日に日野第二中学校体育館を会場にして豊田小学校・日野第五小学校・日野第二中学校の生徒児童が参加する「子ども・いきいきふれあいステージ」を開催しました。



日野警察署少年係（ピーポくんの防犯トーク）



「鉄拳のパラパラ漫画」上映



豊田小学校児童による「器楽合奏」



日野第二中学校生徒による「混声四部合唱」

このイベントには市長を始め関係団体、出演生徒児童や保護者、一般来場者等約560名の参加がありました。又他に6月15日発行の「広報ひの」にも掲載し、広く市民にアピールしました。

開会式に引き続き日野警察署ピーポくんによる万引き防止などの防犯トーク、「鉄拳のパラパラ漫画」の上映を行った後、豊田小学校児童による器楽合奏、日野第五小学校児童による合唱、日野第二中学校生徒による吹奏楽・混声合唱が披露されました。そして最後に吹奏楽の演奏に合わせて「世界に一つだけの花」を参加者全員で齊唱しました。

閉会式では参加各校への感謝状の贈呈や更生保護女性会がタオルで手作りした「更生ペンギンのホゴちゃん」も贈られました。

また、今年の社会を明るくする運動の作文コンテスト



日野第五小学校児童による「合唱」



日野第二中学校生徒による「吹奏楽」

には200を超える応募作品が寄せられ、社明運動への関心が高まりつつあることを実感いたしました。

今後は社明運動の趣旨の啓発や保護司の活動等を更にPRできるようにしていきたいと考えています。

平成29年度 第6ブロック 保護司組織運営連絡協議会

今年度の協議会は、八王子地区保護司会が担当し、10月18日（水）に京王プラザホテル八王子にて開催されました。議題は「期待される保護司会組織運営のあり方」で、次代の役員を担う人材の育成・専門部会の活性化と運営上の課題・ノウハウ継承と改革の方策等について、4地区より発表されました。特徴的なものとしては、協力組織部・学校担当委員会・小学校朝礼での道徳講話・小中学校への平山郁夫カレンダー配布・「秋の社明運動」等が挙げられます。当地区の「要項集」や一日に複数会議開催についての関心度も高く、質疑応答がなされました。当地区は、安西会長のご指導の下10名の協議員が作成した意見書に沿い土方三男副会長により発表されました。当地区の抱える問題点を鮮明に打ち出した的を射た発表であるとの評価を得ました。

観察所への要望（予算・決算方式にして簡略化を。保護司の定年の引き上げの検討。等）に対しての回答を含めての講評があり、3時間に亘る大変有意義な研修を終え懇親会場に向いました。

総務部

3市と保護司会との意見交換会

7月25日、今年で6回目を迎えた「3市との意見交換会」がサポートセンター会議室において開催された。日野市、多摩市、稲城市の担当職員7名の方の参加を得て、保護司会からは12名が出席しました。

毎年テーマを決めて話し合います。今年は、「再犯防止推進計画」の策定に関する各市の取り組みの現状について伺いました。各市共に、問題意識を持って情報収集している段階のことでした。本会は、異なる担当部課の市職員間で共通認識を持っていたらしく場としても重要な位置付となっています。保護司会からは、20周年記念誌の作成に向けての進め方及び各分区の活動状況や報告事項等でした。

そして、保護司の現況と今後の推移等から幅広い層からの適任者の確保の必要性を伝えました。

この意見交換会は、率直な話し合いが行われ私達の更生保護活動を円滑に進める上で有意義な会となっています。

総務部

20周年記念誌発行について

当地区保護司会は、平成31年度に創立20周年を迎えます。10周年記念誌にならい「20年のあゆみ」と題してこの10年間の記録を纏めることにしました。特筆事項としては、全国に先駆けたサポートセンターの開所、同分室の設置、「瀬戸山賞」の受賞、平岡法務大臣や国連アジア極東犯罪防止研修所の視察見学等が挙げられます。

7月25日に第1回編集委員会を開催し、13名の編集委員が集まり、記念誌作成作業を開始しました。編集委員会内のワーキングチーム4班（サポートセンター班、関係機関への文書依頼班、資料収集班、編集班）が夫々に役割分担しました。

平成32年1月の「新春の集い」（20周年記念式典及び祝賀会の同時開催を予定）の開催時に、記念誌を配布します。

会員各位からのご提案・資料提供等ご協力を宜しくお願い致します。

20周年記念誌編集委員

安西 清（委員長）	土方三男（副委員長）
青木智子（総務）	持田幸子（書記）
佐伯 進 紀 初子	篠崎誠一 松本ちづ子
鹿島正二 谷 和彦	貴志義孝 川久保和壽
三枝玲子	総務部

保護司候補者検討協議会

候補者検討協議会は、保護観察所及び保護司会長が共同して日野市、多摩市に設置し、保護司候補者を広く求めるために必要な人材情報の収集及び交換を行うものであり、市から推薦された委員（市職員・更女会・地域団体等）と当地区会長、分区長、副分区長を含めた12人で組織されています。広範な層から適正な確保ができると共に、更生保護とは何か委員の方々に理解していただく機会を持つという大きな目的もあります。

保護観察所からは、立川支部統括保護観察官が出席され、事務局は、総務部長と会書記で担当します。

検討協議会は、日野分区及び多摩分区毎に同日に時間をずらして開催します。年度内に3回開催され、6月7日の第1回協議会で候補者として推薦された3名の方が9月17日付で委嘱されました。9月15日の第2回協議会で推薦された候補者は、来年の2月委嘱に向けて折衝していきます。

総務部

退任保護司紹介

ありがとうございました

尾崎 義昭 氏 日野分区

平成29年6月30日付（在職11年1ヶ月）

大石 靖子 氏 多摩分区

平成29年9月16日付（在職12年）

新任保護司紹介

ご活躍を期待します

平成29年9月17日付委嘱

伊野直美 日野分区（広報部）

山口慶隆 日野分区（広報部）

津守智弘 多摩分区（研修部）

悼



生前のご功労を偲び、謹んで
ご冥福をお祈り申し上げます。

寺沼恭子氏
(73歳 現職 多摩分区)
平成29年6月16日逝去
在職26年1ヶ月

平成29年度 多摩連第一回広報部会を開催

・平成29年6月8日（木）

午前10時00分～11時30分

・東京保護観察所立川支部会議室

第二回広報部会は、平成30年3月8日（木）
に開催されます。

本席上で、イベント等での写真撮影に対して注意喚起がありました。撮影時は、被写体の方々の了解を事前に得るようまた、掲載時は、必要に応じぼかし等を入れることも必要とのことでした。

お読みになったご感想をお寄せください。

会報第53号をお届けいたしましたが、お読みになつて如何でしたでしょうか。“役に立つ・楽しい・発行が待ち遠しい”等々のご感想をいただけます。忌憚のないご意見を下記宛にファックスでお寄せ下さい。部員一同心待ちしております。
ファックス：042-506-5474 サポートセンター

表紙写真の説明

「TOKYO」の声と共に歓喜の叫びに包まれてから、3年。いよいよ2020年開催の東京オリンピックが近づいており、国はこれを見据えて「世界一安全な日本」を合言葉に犯罪抑止、再犯防止への取り組みを強めています。

そんな中、本号の表紙写真のテーマは「街道今昔」。日野市内にあるJR中央線日野駅前の東西に延びる甲州街道を、53年前の東京オリンピックで聖火ランナーが走る様子を掲載しました。

この場所は都内で唯一残存する本陣跡として有名な日野宿本陣（旧佐藤彦五郎宅）のすぐ前です。聖火は蛍見橋で昭島市から、写真の後に日野橋で立川市へと渡され、市内約4.7kmを走破しました。

昭和39年と現在を比較すると、人口当たりの刑法認知件数では約4割も減少していますが、再犯率は約2割増加しています。また甲州街道を聖火が走るとなったら、保護司の皆様の活動が、聖火を守ることにつながります。（日野市総務課）

編集後記

現職の保護司の方が、2名も逝去するという大変悲しい出来事がありました。謹んでお悔やみ申し上げます。

今回の会報は、私たち保護司の最大のイベントである“第67回社会を明るくする運動”がメインテーマで、各分区の皆様方は、対象者に関する活動以外の多くの時間を費やしたことだと思います。管外研修等もあり、多忙な中の原稿作成大変ご苦労様でした。次号は平成30年3月末日発行を予定しております。

（広報部一同）

日野市百草999番地 電話 042-593-0950

FAX 042-506-5474

メールアドレス：vpocentormog@true.ocn.ne.jp

広報部員

部長 貴志 義孝	書記 須崎 勝覚
副部長 川井 博之	会計 河内 恵子
石坂齊雅 伊野光雄 土谷縷美 萩原豊子	
松永 健 津守範学 飯島文彦 高木禎信	
池田教秀 出沼恵美子 伊野直美 山口慶隆	